

アオイガイ

高山達子

2013年11月、三保の真崎海岸で小さなアオイガイを拾いました。とても素敵な貝なので、うれしかったのをよく覚えています。

「アオイガイ（葵貝）」の名は殻を2枚左右対称に合わせると植物のアオイ（葵）の葉に似ていることからつけられたようです。

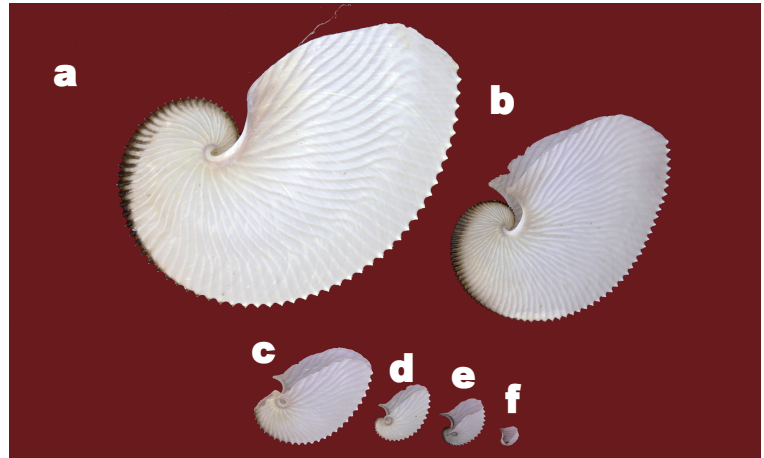
アオイガイと聞くと、貝類だと思いますよね。一般的に、軟体動物を貝類と呼びますので、貝類には違いないのですが…。アオイガイは、普通の二枚貝や巻貝とは遠い親戚に当たります。ちなみに、タコやイカが貝の仲間だ、といわれても、なかなか分かりづらいと思います。タコもイカも軟体動物の1つのグループで、その定義に当てはまります。お刺身になるコウイカは、名前のとおり、体内に甲が入っていて、この甲が、いわゆる貝殻に当たります。

さて、アオイガイは、タコ（カイダコ）の雌の第1腕が広がった被膜から分泌される殻で、卵を哺育します。一方、卵を哺育する必要のない、カイダコの雄は殻を作りません。厳密にいうと、その生成過程から、アオイガイは、狭義の貝殻とは異なります。一般的な貝殻は外套膜から分泌した成分で作られているからです。

アオイガイは、日本海側の九州から北海道まで、対馬海流の状態や、風・気温などの条件が整うと、大量漂着することが知られています。20cmを超えるような大型のアオイガイも漂着するそうです。いつか探しに行きたいなと思っています。

太平洋側でも、時折、アオイガイの漂着がみられます。

2013年に三保で拾ったものは、かなり小さく4cmでした。その後、2019年12月に、東海大学海洋学部の誓山泰地君が軟体部（カイダコ）の入った約8cmのアオイガイを見つけたことを報告してくれました。さらに、2024年1月21日



アオイガイ： a: 島根県松江市多古産, b: 新潟県佐渡市産, c-f: 静岡市清水区三保産; c: 2019年12月07日, 飛行場前で誓山泰地採集, 7.5cm (軟体部も一緒に打上), d: 2013年11月16日, 内湾側で 高山達子採集, 4cm, e: 2024年01月21日, 真崎海水浴場前で横山謙二採集, 3.5cm, f: 2024年01月21日, 真崎海水浴場前で高山壽彦採集, 5mm



島根県松江市多古で採集したカイダコ+アオイガイ

に、NPOの横山さんが、3.5cm程度のアオイガイを見つけました。その日は、NPO観察会として、三保でビーチコーミングが計画されていましたが、残念ながら雨模様で、観察会は中止となりましたが、雨の中、波打ち際で、見つけてきたのでした。その後、もっと小型のアオイガイも見つけることができました。

その後60年ほど前の情報がNPOの鈴木英文さんよりありました。鈴木さんは小学生時代に、清水区の袖師海水浴場で遊泳中に、カイダコが入って浮游している4cmほどのアオイガイを見つけたことがあるそうです。